

洋書輸入協会会報

VOL. 19

NO. 1

(通巻 213 号) 昭和 60 年 1 月

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

昭和 60 年 元旦



理事長

飯泉新吾

昨年、この会報での新年のご挨拶の中で、朝日新聞社のアンケートにふれ、主要100社の約8割が「景気はゆるやかに上昇している」と判断していることを記しましたが、11月の下旬に発表された新しい調査によりますと90%が景気の回復を実感として受けとめ、上昇感が一段と強まっていることが見受けられます。

しかし反面、我が国の経済に大きな影響を及ぼす米国の景気は、実質経済成長率において第一・四半期が10.1%、第二・四半期が7.1%と強い拡大軌道をたどったものの、第三・四半期に至って2%台へ減速を示し、景気失速を懸念した米連邦準備制度理事会によって公定歩合の引下げが実施されたことは、新聞紙上で既にご覧の

通りでございます。前述の100社の調査においても、本年の米国景気を慎重視する経営者が多く、それを懸念材料の一つとして我が国の経済動向についても「回復テンポが鈍化する」との判断もかなり見られます。

こういう経済環境の中で民需の若干の増加が見られるようになったとはいえ、文教予算に大きく依存する洋書業界としては、59年度の実質マイナス成長予算の中で、会員各社共苦闘した一年であったと思います。

世界的にも出版産業は、需要の低迷、進行しつつある新しい媒体変革への対応等難しい状況を抱え、そういう中で日本市場への期待が一層高まってきていると判断されます。昨年は、洋書・外雑の価格をめぐってのカルコ

新年の挨拶 理事長 飯泉新吾… 1 新年の挨拶 三洋出版貿易(株) 伊部利秋…………… 2 理事会報告…………… 3	文化厚生委員会だより 72回(第37回)納会…………… 3 海外ニュース…………… 3 来日外人名簿…………… 3	オックスフォード大学出版局 川脇氏名誉学位を贈られる…… 4 外国出版社紹介 No.107 …… 4 広告…………… 6
---	--	---

国 ALPSP (学術専門学会出版協会)
、ドイツ出版社のデレゲーションの来
書輸入協会としての対応を図りました
日本市場への強い働きかけが痛感させ
上によると、60年度政府予算は引き続
その上、累増する国債の利払い費負担
可能性、特に法人税、O/A 機器を対象
紙税等企業関連の増税が具体的に検討
う問題も含めて、洋書業界は本年も

正月

に馴らされた世代としては、新年は勿
それよりも、これでまた一つ歳をとっ
強い。
旦には必ず学校へ行った。元旦に限ら
交して式典に臨むのが普通であった。
その「教育勅語奉読」と訓話を聞き、祝
紅白の饅頭か落雁をもらって帰って来
きものだが、屠蘇を飲み過ぎてく教育
学校の講堂でぶっ倒れたことが二度程
られて小使室で寝ころんでいるうちに
くる。今、味淋に屠蘇を入れて新年を
こどれ程あるのだろうか。学校の式も
その頃(昭和初期)の遊びは、男はペー
った。(新年に限らぬがとくに正月休み
とも夢中になったのが百人一首か。
の句を全部覚えている。馬鹿の一つ覚
一ごまはとくに男の子を夢中にさせ
バケツの中での一瞬の勝負が、子供の
駄菓子屋やおもちゃ屋で買った独楽
、皆それぞれ加工し、工夫をこらし
四角や五角にし、相手の独楽をはじ
1工には近所の家のコンクリートの塀
りになり役に立った。まさに手づく

厳しい対応を迫られることになるものと思われます。
洋書の輸入・販売にたずさわる者として、われわれ一
人一人が日本の学術文化の発展に取組んでいるという自
覚と使命感を持っているものと思います。そのためには、
会員各社がそれぞれ企業体質の強化を進め、その上に
立った協力体制によって業界の繁栄を図り、ひいてはわ
が国の学術文化の発展に貢献して行きたいと念願してお
ります。
年頭にあたりまして、会員皆様のご健闘を祈念致しま
して、ご挨拶を終わります。

伊部利秋

広場でたこを揚げて高さを競ったりもしたが、これに
は大人も加わった。高く揚がるにつれ子供の力では怪し
くなってくるのである。たこも尻尾づけなど手を加える
ことが大切であった。……
庄野潤三によれば(山の上に憩いあり)、昭和36年、河
上徹太郎との交遊が始まった。(それぞれ生田村と柿生村
に住みついて。)その時河上徹太郎が数え年60才になり、
「晩年にこれから入ってゆこうとする」という感懷を述べ
たそうである。昭和60年、私はまぎれもなく数え年60才
で、いよいよ晩年を迎える。中原中也の言葉を借りれば、
(頑是ない歌)「思へば遠く来たもんだ 此の先まだまだ
何時までか 生きてゆくのであらうけど……」という感
概である。戦死した仲間こそすくないが、ルンゲ(肺病)
で多くの友を失った。私自身も戦後(昭和22年春)肺炎
から肋膜炎を併発し、ペニシリンのはしりが辛うじて間
に合って命を取り止めた。パスやストマイがもうすこし
早く普及すれば、何人かの友だちも死を免れた筈である。
正月早々話が滅入ってしまった。
昨秋、出版広告は朝日、といわれている、かの朝日新
聞が「返本の洪水」などという記事を一面トップに載せ
る時代である。滅入るではないか。和書はともかく、洋
書の業界も新しい時代を迎えつつあるのだろうか。これ
も晩秋、学術書の大手、エルゼビアのチェアマンが来日
し、「電子出版を研究している」と述べたことが印象深い。
(三洋出版貿易株式会社取締役社長、理事)

スクに納
門は、諺
部門と、
担当する
またこ
を駆使し
ハード
と呼ぶ。
占めてい
プログラ
一般書と
に宝の山
03-542-
版も進め
最近出
Valley-
定価3,60
うか。19
の13才の
大型コン
ソコン・
とって一
店にお目
その翻
調べてみ
のなどで
blows or
ソコンに
社の Dict
他の1冊
葉ではな
1. hac
2. hac
(A
“Hack
ちのこと
ル・アレ
だろうか
者諸氏の

理事会報告

12月11日(火)

(一) 11月分収支計算・予算対比表

12月7日の総務委員会での検討にもとづき松井幸雄氏(丸善)の説明があり、承認した。

(二) ケミカル・アブストラクト誌

上記ほかの取扱中止にもとづく問題について意見を交換した。

(三) その他。

文化厚生委員会だより

72会(第37回)納会

1984年度72会の納会は、12月22日(土)に20人の参加をえて上武カントリークラブ(群馬県鬼石)で行われた。上武C.C.は参加者中5名がメンバーになっているコースで、や・トリッキーながら面白いコースである。フェアウェー、グリーン共コンディションは上々でノータッチで行った。お天気も微風快晴で、セーターもいらぬ位の暖かさであった。

競技は今年最終戦ということで各選手力が入ったが、5人の地主をはじめ各優勝候補が今一つ調子が出ない中を、万年ダークホースの上杉氏が午前中41の好スコアをマーク、午後も大方の期待と予想に反して崩れず、グロス87、ネット71のパープレイで大穴(2枚)の優勝となった。準優勝は相変わらず好調の相良会長、第三位には初参加の後藤嬢(カリヤー・マクミラン)が入賞した。ベストグロスも上杉氏が取り、かつてない珍事に本人が一番びっくりしているようであった。ベストグロス候補の尾崎氏は何故かブービーであった。年末調整?

尚、相良会長と前回優勝の河辺さん(極東書店)より多額のご寄付をいただきありがとうございました。

順位 八塩 さつき グロス H.C. ネット

1位 上杉勝良 (UPS)

41 46 87 16 71

2位 相良広明 (紀伊國屋)

44 50 94 20 74

3位 後藤明美 (C.マクラミン)

52 57 109 35 74

4位 鎌田公正 (ナウカ)

49 47 96 20 76

5位 金子英夫 (オリオン)

45 47 92 16 76

ベストグロス 上杉勝良 (UPS)

D.C. 和田 茂 (大洋交易) 金子英夫 (オリオン)

N.P. 川原孝人 (ADA) 竹内紀彰 (八重州 B.C)

(K.U.記)

海外ニュース

「ガルフ・ウェスタンによるプレントイス・ホール社買収」

コングロマリットのG&W社がP-H社を買収し、米国最大の出版社が誕生することになった。P-H社の社名と経営陣に変更はなく、そのまま出版活動が続けられる。G&W社は、米国出版界第6位の売上を持つSimon & Schuster社の親会社であり、一方P-H社の売上は全米第10位、両社の売上を合算すると第1位のMcGraw-Hill社の書籍売上(\$406.5m)を追い抜くことになる。

G&W社とP-H社の両社は、11月25日、1株71ドル総額\$718m.に達する公開株式買付けに同意した。P-H社はG&W以外の他社によるより有利なテnder・オファーを防ぐため、P-H社の新規発行500万株を買付けるオプションを、更にG&W社に与えた。これによりG&W社は、P-H社株の1/2を支配することになる。P-H社取締役会は、全員一致でG&W社のオファーを承認しており、P-Hシェーファー社長は、株主に対し、来る株主総会でG&W社のオファーを承認するよう求めている。

(Publishers Weekly 1984年12月7日号より)

—紀伊國屋書店提供—

来日外人名簿

11月下旬 Mr. Julian Emory, Longman Group Ltd.

12月上旬 Mr. Ulrich Staudinger, Philosophia Verlag

” Mr. T.J. Fenwick, Marketing Director,
Euromonitor Publications Ltd.

12月中旬 Mr. David Parrish, Export Sales Manager,
Macdonald Co., Ltd.

オックスフォード大学出版局東京支社 支配人 川脇達郎氏、名誉学位を贈られる

川脇達郎氏は、昭和59年7月21日英国オックスフォード大学において、同大学の名誉学位 (Honorary Master of Arts) を受けられました。日本人では最初か或いは2番目の由です。洋書輸入協会会員一同よりお喜び申し上げます。

外国出版社紹介 No.107

Osborne/McGraw-Hill オズボーン/マグローヒル社

A Division of McGraw-Hill Information Systems Company
Berkeley, California, U.S.A.

「ハッカー」と言う言葉を最近になって時折耳にするようになった。アメリカでは大分以前から使われているスラングのようである。“hacker”「コンピュータ狂」、「パソコンで大型コンピュータ網に侵入する人」などの訳を見つけるが、一般の辞書には載っていない。

何故このようなことで書き始めることになったかと言うと、その言葉の起源が、シリコンバレーでパーソナルコンピュータを産み出した若者たちにあったようだからである。更にその若者たちの一人がオズボーン社の設立者であるアダム・オズボーン氏 (Dr. Adam Osborne) であった。“hacker”については若干あとで触れてみたい。

言うまでもなく、オズボーン/マグローヒル社はコンピュータ関係書の出版社である。1975年にそれまでマイクロコンピュータ分野におけるコンサルタントとして活躍していたアダム・オズボーンは、自らのビジネス拡張のために出版した「マイクロコンピュータ入門」なる入門書が、当時まだ幼児期にあったマイコン界全体から絶賛を受け、多大な成功をおさめたことに勇を鼓し、設立した出版社が“Osborne and Associates”であった。当然のことながら、オズボーン社の躍動はアメリカ国内大手出版社の関心の的となり、1979年にマグローヒル社に合併され、McGraw-Hill Book Companyの子会社となったが、1985年1月1日付でMcGraw-Hill Information Systems Companyの管轄下に入った。1982年にマグローヒルを去ったアダム・オズボーンは、小型ポータブル・パソコンをひっ提げて日本市場開拓にやって来たが、昨年のパソコン業界の過当競争の中で倒産した。原因は新型モデルの情報漏れにより、当時のモデルを買い控えられたため、ということであったのも記憶に新しい。

コンピュータそのものと、出版の両産業にそのルーツをもつオズボーン/マグローヒル社は、非常にユニークな機構をもつ出版社としてその權威を誇っている。機能別に見ると5部門からなっているが、特徴はその1部門が“技術グループ”(Technical Group)と呼ばれるハイテクグループで、全製品の品質管理の中心的存在になっていることであろう。出版または生産企画を綿密にチェックするのは勿論のことであるが、著作者ならびに原稿が彼等の厳重な調査をパスしなければ出版契約には到らない。契約後もこのグループは著作者を援助しながら高品質な作品へともってゆく。更にマイクロコンピュータの開発と維持、使用などについてのコンサルタントとして活躍している技術者グループである。

営業部 (Sales & Marketing Department) は主にアメリカ全域に散在するコンピュータストア、エレクトロニクスストア、および書店へテレマーケティング (telemarketing) を行っている。オズボーン編集部 (Editorial, Design & Production) のタイプセット・プロセスは、業界の中で最も進んだ機能を持ち、ディ

スクに納められた原稿をトランスファースystem等を通し最少の労力でタイプセットしてしまう。他の2部門は、調達部 (Acquisition Department) とでもいうのか、著作者や原稿の獲得、評価、契約書作成の担当部門と、総務部 (General Administration) で、後者は言うまでもなく総務、経理、および顧客サービスを担当する部門である。

またこれ等5つの部門が孤立した部門としてでなく、すでに述べたようにコンピュータ産業における技術を駆使したsystemで、全社があたかも一人の人間のように調和のとれた体制にあることは特筆に値する。

ハードウェア、ソフトウェアに対してオズボーン/マグロウヒルの出版物は「ヘルプウェア」(Helpware)と呼ぶ。読んで字の如しで、アメリカ製パーソナルコンピュータの主要機種に関する出版物が、その主流を占めている。まず IBM PC, APPLE II, Commodore, ATARI 等のユーザーガイド、ソフトウェア、O/S、プログラム言語、ディスクガイドの他に、プログラム集、各種のアセンブリ言語プログラム集、ゲーム集、一般書とその出版内容は幅広い。このオズボーン出版リストは、アメリカ製機種のユーザにとっては、まさに宝の山と言っても過言ではないであろう。現在日本での配給は、東京のマグロウヒルブック株式会社(Tel. 03-542-8821)がストックリストとして担当している。また日本でユーザの多い内容のものはどしどし翻訳出版も進めている。

最近出版されたタイトルのなかから興味深いと思われたものを1点紹介してみたい。原著名は“Fire in the Valley—The Making of the Personal Computer by Paul Freiberger and Michael Swaine, 1984, 288pp、定価3,600円”で、「シリコンバレーに上がった狼煙=パーソナルコンピュータの生いたち」とでも訳すのだろうか。1960年の終り頃のシリコンバレーで、当時15才の物静かな少年ポール・アレン (Paul Allen)、幼な顔の13才の少年ビル・ゲーツ (Bill Gates) がコンピュータのとりことなり、後に APPLE 等のパソコンを開発、大型コンピュータ企業に挑戦していった約25年に亘る歴史を、本人たちとのインタビューを通して綴った“パソコン・パイオニア”の痛快な歴史である。コンピュータ、特にパソコンのユーザは勿論、全ての現代人にとって一度は読む価値のある本である。幸いマグロウヒルブックで翻訳出版の企画があり、2月頃には書店にお目見えする筈なので、是非一読をおすすめしたい。

その翻訳書のサブタイトルに“ハッカーズ”という言葉が使われているようなので、もう一度この言葉を調べてみたが、まだどうも納得がいかない。というのは、“hack”の動詞を一般の辞書で調べてみると、「(おのなどで) たたき切る、めった切りにする、(かき根など) 刈り込む、等」「to cut with irregular and heavy blows or in a random manner, to chop off, etc.」と定義されている。かなり激しい感じの単語であり、パソコンに繋がるイメージは湧いてこない。次にスラング辞典を2冊ほど調べてみたが、Thomas Y. Crowell 社の Dictionary of American Slangs, 1960年には予期した通り従来の意味 (a taxicab, a bus) のみである。他の1冊には次のように定義してあるが、この定義からすると「ハッカー」とはあまり良い暗示を与える言葉ではないようである。

1. hack (hæk) (英 米) n. 無能な専門家、道徳的観念のない金儲け主義の専門家、(特に道徳観念のない) 医者、弁護士
2. hack around (米) v. ぶらぶらする、のらくら過ごす (I simply hacked around without any aim in life. 人生に何の目的も持たずにぶらぶらしていた。

(American and British Slang Dictionary, Asahi Press, 1981)

“Hackers”とは大型コンピュータ網、即ちメインフレームに入り込んでそのプログラム等を破壊する人たちのことを指すということも耳にした。するとシリコンバレーでパソコン開発を手がけた若者たちが、ポール・アレン、ビル・ゲーツ、アダム・オズボーンも含めてはたして本当に“ハッカーズ”と呼ばれているのだろうかという疑問にぶつかった。更に調べた上でチャンスに恵まれたら結果をご報告申し上げたいが、読者諸氏の意見はいかがであろうか？

(RA 記)

《マイクロフィッシュ・コレクション》

シェイクスピアとその時代

英国ルネッサンスの文学・芸術・演劇



BIBLIOTHECA SHAKESPEARIANA

The Mirror of the English Renaissance Studies Classical and Modern Criticism

〈昭和60年1月刊行開始／昭和62年12月完結予定〉

30 Subject Units in 10,000 microfiche, with User's Guide.

セット概価 ¥12,000,000

研究主題別分売価 ¥420,000

シェイクスピア研究は、シェイクスピアの生きた時代及び社会の研究も含めて多岐にわたっておりますが、当コレクションは、それらの研究に必要な史料群を、一定の方針に従い、網羅的に整理したものです。その方針とは、多様化する一つ一つの研究テーマにとり必要と思われる文献を各々のテーマに対応するまとまった形で提供することです。その結果、当コレクションは、過去4世紀にわたって、ウィリアム・シェイクスピアの生涯、作品、そして、この天才を生みだした時代に関する基本的かつ重要な文献約2,400タイトル、1,000,000ページをマイクロフィッシュで提供しております。世界中より斯界一流の研究者(下記参照)を迎えた編集委員会が、シェイクスピア研究の区分として最も適当と思われる30の研究主題を特定し、シェイクスピア研究の新たなアプローチを示唆するという編集上の指針のもとに各研究主題を追究するに必要な基本的史料を精選しています。

編集・顧問委員会

John F. Andrews (米) / Philip Brockbank (英) / Levi Fox (英) / O. B. Hardison (米) /
Jiro Ozu (日) (小津次郎) / Samuel Shoenbaum (英) / Stanley Wells (英) / W. Habicht (西独)

主要協力機関

Folger Library (米) / Birmingham City Library (英) / Cambridge University Library (英) /
Huntington Library (米) / Oxford-Bodleian Library and College Libraries (英) /
Shakespeare Institute (英) / Library of Congress (米)

(Pergamon Pr., USA / Maruzen, JPN)

* 詳細資料ご希望の方は、弊社書籍雑誌事業部情報管理課までご請求ください。

日本総代理店
丸善

本社・日本橋店：〔〒103〕東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町)・新潟・水戸・八王子・甲府・松本・札幌・旭川・仙台・弘前・
秋田・盛岡・山形・郡山・筑波・横浜・名古屋・静岡・岐阜・三重・金沢・富山・福井・京都・滋賀・大阪・
奈良・神戸・姫路・岡山・松山・広島・山口・福岡(店屋町・天神)・長崎・鹿児島・沖縄 /
ニューヨーク・シンガポール

昭和60年1月 通巻第213号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル603号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329